



APOLLO
MEDICAL HOLDINGS

海外研修だより

～薬剤師だって、空を飛ぶ～



視察内容

視察地: ポートランド、ラスベガス

日程: 2017.9.5～9.12

9月6日 成田→ポートランド着

- ・Pharmaca Integrative pharmacy視察
- ・WHOLE FOODS視察



9月7日 <AM>

- 講義 ・オレゴン州立大学薬学部(OSU)における薬学教育
- <PM> オレゴン州立大学病院(OHSU)へ移動、院内見学
- 講義 ・OHSU薬局サービス
- ・公衆衛生の緊急事態での薬剤師の役割

Walgreens視察

9月8日 <AM> 質疑応答

- 講義 ・医薬品遺伝学と老人病学

<PM>

- Kaiser Mail Order Pharmacy訪問
- Propac-Payless Longterm Care訪問
- 講義 ・ホスピスケアに移る際の薬の決定
- ・長期ケア薬局

CVS Pharmacy視察



9月9日 <AM> オレゴン州立大学コーバリス校にて

- 講義 ・コミュニティ健康センターでの臨床薬局サービス
- ・薬局実務におけるオレゴンの発展

質疑応答

研修プログラムの修了証授与

<PM>

- オレゴン州立大学キャンパスツアー
- ホテル会議室にて研修まとめセミナー

9月10日 <AM> 移動 ポートランド→ソルトレイクシティ→ラスベガス

<PM> ・Costco視察

ラスベガス市内観光

9月11日 ラスベガス自由視察 グランドキャニオンへ

9月12日 ラスベガス→ロサンゼルス→羽田着

視察内容

□コミュニティ薬局:Walgreens

アメリカ最大手のチェーン薬局。棚の配置や商品が、系列のどの店舗も同じようになるように設計されていることが特徴である。

初回は必ずカウンセリングが必要だが、それ以外はほとんど薬を渡すのみ。8割は保険会社の指定する薬を使用している。見学した店舗は200枚/日、1500~2000枚/週、9:00~21:00で薬剤師2人、テクニシャン2人(時間で交代制)で業務にあたっている。薬剤師とテクニシャンの割合や人数の配置は、州によって規定がある。処方箋枚数からして調剤が早いのか、と思ったがそういうことではないそう。受付から30分程度はかかるとのことだが、メールで前もって受付したり、リフィルも先に調剤して対応しているとのことだった。処方箋の形態は、医師からの電話の内容を写したものの、電子メール、紙媒体、リフィルと様々。有効期限は1年間、麻薬は6か月。リフィル処方箋の使用回数は疾患や症状によって変わる。

□「コミュニティ健康センターでの臨床薬局サービス」

コミュニティ健康センターは無保険者や入っていてもなかなか病院を受診することができない人々、貧困層のためのセーフティネットとしての役割を果たしており、その資金源は州や市、寄付により賄われている。少ない費用のなかで、個々の患者の治療アウトカムを最適にするような医薬品の適切な選択と使用を促進する、患者中心のサービスをコンセプトとしている。保険会社からの支払いはアウトカムが得られていないと行われたい。一人当たりの基本料+アウトカムに応じた補填、というシステムで、例えば高血圧の治療において、結果として血圧が下がっていれば支払いが下りるし、その効果が期待以上であればその報酬は大きくなる。その為4半期に1度、保険会社に治療結果の報告を行っている。



参加者からの感想

今回の研修ではアメリカと日本の医療制度、薬剤師の状況について比較し、実感することが出来た。アメリカと日本の違いを実感した部分としては、まずDo処方などはテクニシャンが患者に与薬することもあり、処方を受けた全員に薬剤師が服薬指導するわけではないため、日本に比べると薬剤師と患者との接点が少ないと言う点が1つあった。また、メールオーダーのように薬の宅配を専門とする薬局も多く、最近日本でも進められている遠隔医療がより進んでいると感じた。

